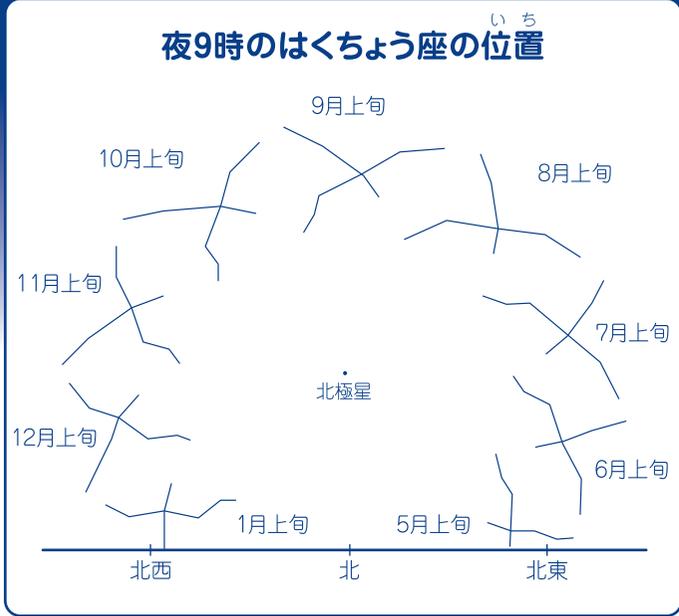


# はくちょう座の見つけ方



左の図は、それぞれの月の夜9時に見えるはくちょう座の位置を示しています。はくちょう座のデネブは、夏の大三角を作る星のひとつです。夏の大三角を見つることができれば、その中にきれいに並んだ十字の星のならびを見つけることができます。

はくちょう座は、星が十字にならんだ形から北十字と

も呼ばれています。クリスマスの頃の夕方には、この北十字が北西の空に十字架のように立って見えます。はくちょう座は、ちょうど天の川の上にあるので、はくちょう座を使うと、天の川を肉眼で観察できない都会の

空でも天の川の場所を知ることができます。暗い場所へ

行くと、白くポーッと川のように流れて見える天の川は、2000億もの星の集まりです。双眼鏡や望遠鏡を使うと都会の空でもたくさんの星の集まりであることを観察することができます。英語では、The Milky Way 日本語に訳すと「乳の流れ」と呼ばれています。ギリシャ神話では、勇者ヘルクレスが赤ちゃんのときに、ヘラの乳房を強く吸ったために、乳がほとばしり出て流れてきたと言われています。

## 星座こぼれ話

はくちょう座のくちばしの先には、アルビレオと呼ばれる二重星があります。この星は、約30万年の周期でお互いまわり合っているの、連星と呼ばれています。アルビレオは「天上の宝石」とたとえられ、金色とエメラルド色に輝くようすはとてもみごとです。

## 『ファエートの冒険』

太陽の神アポロンは、毎日毎日、火の二輪車をあやつっては、大空を東から西へ駆け抜けておりました。アポロンには、母親と一緒に下界に住んでいるファエートンという息子がおりました。ある時、友達がファエートンに言いました。「あの火の二輪車を走らせている太陽の神がきみのお父さんだなんて、うそにきまっている。」悔しさをいっばいになったファエートンは、母に頼んで、日の出の国にいる父に会いに行きました。

「どんな用事があって来たのだ、何か望みがあるのか。何なりと叶えてやろう。」アポロンはやさしく言いました。

「ひとつだけ、たったひとつだけお願いがあります。1日だけでいいですから、火の二輪車をぼくにかしてください。」

これを聞いたアポロンは、みるみる顔を曇らせました。太陽の神である自分でさえ、走らせるのが難しいのです。でも、息子の勇気を試すよい機会です。アポロンは、ファエートの顔が炎で焼けないように、油を塗ってやり、自分の頭からはずした太陽をつけてやりました。

四頭の天馬にひかれて、火の二輪車はいきおいよく大空にかけあがりました。「なんて、すばらしいんだ！」見渡すかぎり、はてしない真っ青な空です。雲をくぐり、朝風を追い越し、火の二輪車はぐんぐん走っていきます。

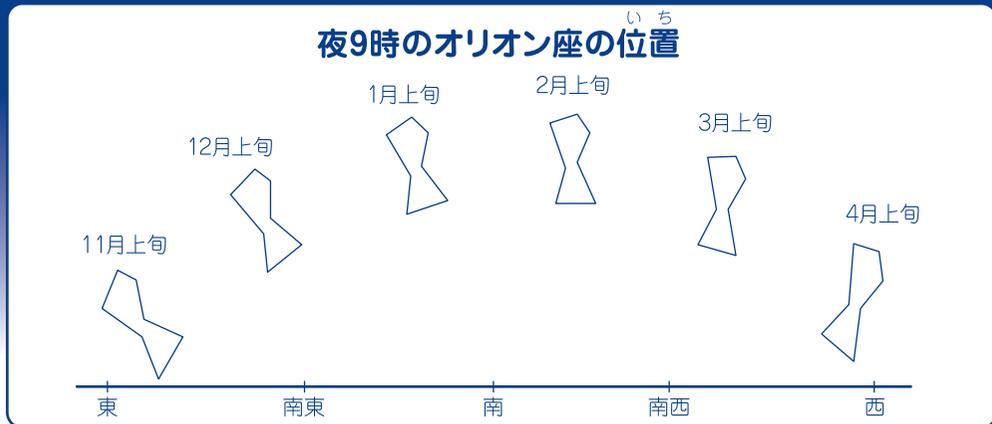
しかし、しばらくすると、いつもと様子が違うことに気づいた天馬たちが勝手な方向に走り出しました。もう、ファエートの手綱さばきではどうすることも出来ません。

火の二輪車は、もうめっちゃくちゃに走っています。ファエートンは、後悔しましたが間に合いません。火の二輪車が地上にふれるとあたりは火の海となり、ついには、星までもこがし始めました。天を支えているアトラスは、熱くて熱くて我慢できなくなりました。見かねた大神ゼウスは高い塔に登り、ファエートの乗っている二輪車めがけて雷の矢を投げつけました。

火の二輪車は雷に打ち砕かれ、哀れなファエートンは、長い光の尾を引いて流れ星となり、エリダヌス川に落ちていったのです。親友だったキュクノスは、いつまでも川の中のファエートンをさがしましたが、見つかりません。そうしているうちに、いつのまにか白鳥になってしまいました。アポロンは、この白鳥を星にしてやりました。星になったキュクノスは、いまもなお、天の川の上を飛び、親友ファエートの姿を探しているそうです。

～ ギリシャ神話より ～

# オリオン座の見つけ方



上の図は、それぞれの月の夜9時に見えるオリオン座の位置を示しています。オリオン座は、三ツ星を4つの星が取り囲んでいるのが特徴です。その4つの星のうち2個が1等星で、左上のベテルギウスは、赤い色で、右下のリゲルは青白い色で輝いています。オリオンの三ツ星は、東の空に登ってくるときは縦に並んで見えますが、南の空に輝いているときは横に並んで見えます。

オリオン座のベテルギウスを中心に6個の1等星が輝いています。おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルクス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、そしてオリオン座のリゲルです。オリオン座を見つけることができれば、おおいぬ座、こいぬ座、ふたご座、ぎょしゃ座、おうし座もすぐ見つけることができます。ぜひチャレンジしてみてください。

### 星座こぼれ話

オリオン座には、白鳥が羽ばたいているように見える散光星雲(M42)があります。ここは、新しい星が誕生しているところで、トラペジウムと呼ばれる4つの若い星を見ることができます。

## 『オリオンと月の女神アルテミス』

オリオンは海の神ポセイドンの息子ですが、母が人間なので小さいときから人間として育てられました。背が高く美男子で力持ち、その上狩りが大の得意でした。父のポセイドンから、海の上を陸地と同じように歩き回る力を与えられました。

ある時オリオンは、この力を使って海を渡り、地中海のクレタという島へ狩りに出かけました。そして、月と狩りの女神アルテミスに出会いました。二人は、毎日仲良く島の野山を駆け回り狩りを楽しんでいるうちに、お互いが好きになりました。

噂を聞いた、アルテミスの兄である太陽の神アポロンは、人間のオリオンとは結婚させるわけにはいかないと思いました。

ある夜のこと、島の海岸をオリオンが一人で歩いているのを見つけると、その足元に一匹のサンリを放してやりました。さすがのオリオンも、毒虫のサンリにはかきません。あわてて海へ飛び込むと、沖へ向かって逃げ出しました。

これを見ていたアポロンは、アルテミスの所へ行って言いました。「おまえは弓の名人だが、あそこにボツンと見える黒い点を弓で射止めることができるかな？」アルテミスはムツとしたように、弓を取り上げました。「なにが無理なのよ。あれぐらい、遠いうちにはいるものですか！」叫ぶなり、満月のように弓を引きしぼると、その沖の黒い点をねらって、ヒュツと矢を放ちました。

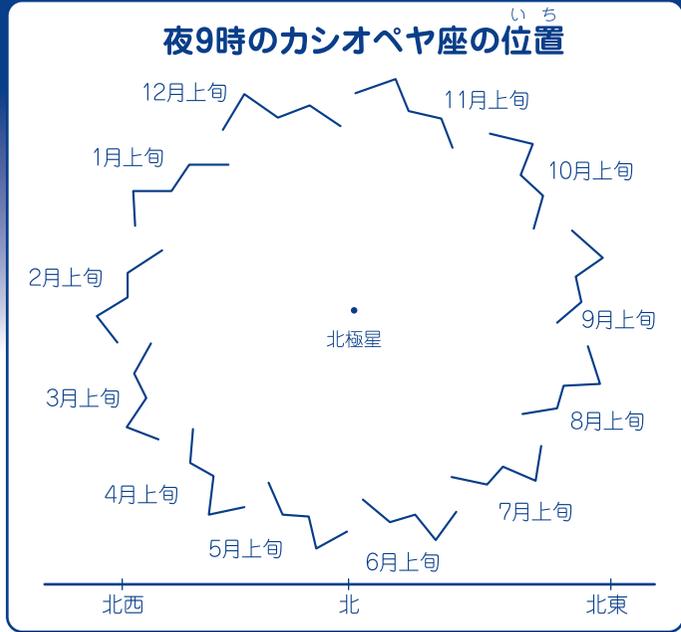
矢は見事に命中。黒い点はすっと沈んで見えなくなりました。

次の日の朝、オリオンが変わり果てた姿で浜に打ち上げられました。見れば自分の矢が、首にささっているではありませんか。アルテミスはオリオンを抱いて、嘆き悲しみ、軽はずみな自分の振舞いを悔やみました。でも、人間であるオリオンは、二度と生き返ることはないのです。

アルテミスは、大神ゼウスにお願いして、オリオンを星にしてみました。でも、オリオンは冬の星座で、夏の夜は姿を見せません。それは、夏の夜には、オリオンを刺そうとした、あの大嫌いなサンリが、頑張っているからです。

また、冬の夜に、オリオン座のすぐ近くを、大きな月が通り過ぎていきます。これは、月の女神アルテミスが、銀の車でオリオンに会いに来ているのです。 ~ ギリシャ神話より ~

# カシオペヤ座の見つけ方



左の図は、それぞれの月の夜9時に見えるカシオペヤ座の位置を示しています。カシオペヤ座は、5つの星が季節によってWやMの形に並んで見えるのが特徴です。カシオペヤ座は、一年中見ることのできる星座ですが、秋から冬にかけて北極星の上に高く上り探しやすいです。秋には、上の図

にあるように北北東の空にWが立ったような姿になっています。冬から春にかけては、北極星の上にMの姿を見つけることができます。春から夏には低いところにWの形に見えています。

カシオペヤ座は、北極星を見つける目じるしにもなります。下の図にあるように両端の二つの星を結んで伸ばし、交わった点から真ん中の星を結んで伸ばしていくと北極星を見つけることができます。

## 星座こぼれ話

カシオペヤ座の近くには、二つの星団がびったりよりそうように並んだ二重星団を見ることができます。この星団は、300個あまりの若い星のあつまりです。

## 『アンドロメダ物語』

古代のエチオピア、そのエチオピア王、ケフェウスには妃のカシオペヤとの間に美しいアンドロメダという王女がいました。

アンドロメダ王女は、とても美しく、カシオペヤ王妃の誇でした。しかし、それを自慢するあまりに「海の妖精ネーレーデースでさえ、私の娘のアンドロメダの美しさにかなうまい」と言いふらしたのです。

するとまもなく、エチオピアの海岸には津波が襲い、海の魔物が現れて漁師は漁ができなくなり、丘の上の牛や馬までさらわれるようになりました。

ケフェウス王とカシオペヤ王妃は人々の訴えを聞き心配のあまり、神様にその理由をたずねました。

その返事はこうでした。「カシオペヤ王妃がアンドロメダ王女の美しさには誰もかなうまい。といったのを海の神様が聞き、それを怒ってのことである。それを鎮めるには、アンドロメダ王女をいけにえにする以外に方法はない。」

アンドロメダ王女は海辺の大きな岩に鎖でつながれました。エチオピアの人々のためにと覚悟をして王女は目を閉じ、化けくじらの現れるのを待っていました。

やがて空には黒い雲が垂れこめ、暗い海の上では大きな波がたち始めました。そしてその波の中から大きな化けくじらが現れたのです。気を失った王女を化けくじらがひとの呑みにしようとした時…

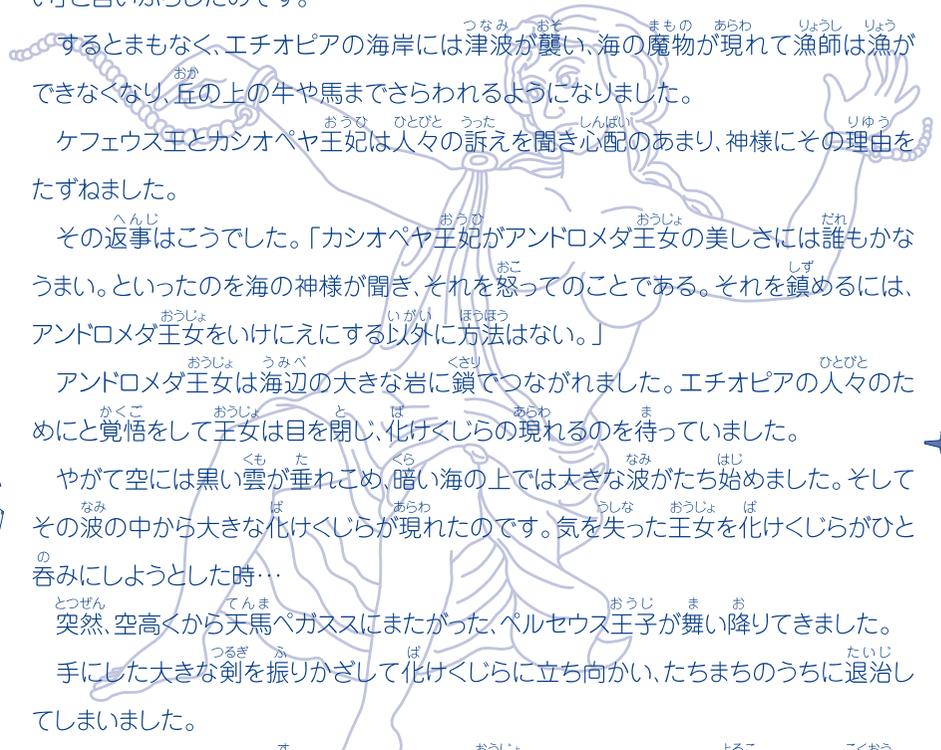
突然、空高くから天馬ペガサスにまたがった、ペルセウス王子が舞い降りてきました。手にした大きな剣を振りかざして化けくじらに立ち向かい、たちまちのうちに退治してしまいました。

いけにえにならずに済んだアンドロメダ王女と手をにぎり合せて喜んでいる国王と王妃にペルセウス王子は王女との結婚を申し込むのでした。

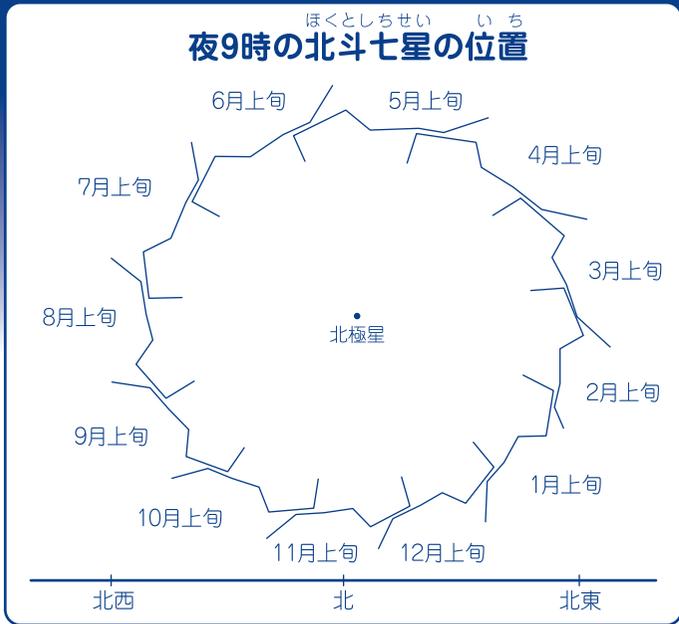
エチオピアの国と人々を救った二人は、ケフェウス王とカシオペヤ王妃、それからエチオピアの人々に見送られてペルセウス王子の故郷へと旅立ちます。

二人はそこで幸せに暮らしたということです。

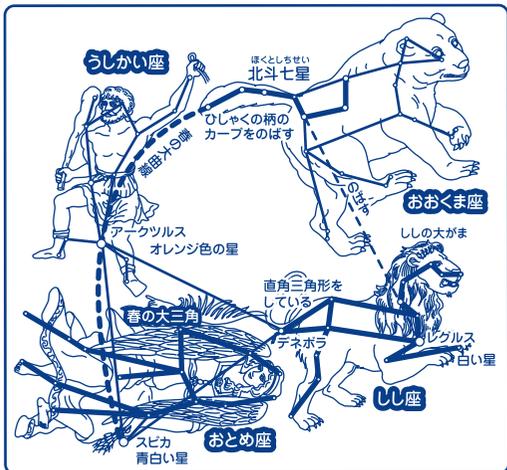
～ギリシャ神話より～



# ほくとしちせい 北斗七星の見つけ方



ほくとしちせい  
なっています。北斗七星を使うと、春の色々な星座を見つけることができます。みなさんも、春の星空さんぽをしてみませんか。



## 星座こぼれ話

ほくとしちせい おおぐまし  
北斗七星には、大昔アラビアの  
へいし め けんさ つか  
兵士の目の検査にも使われたミザールと  
アルコルと呼ばれる二重星があります。  
ほし ぐうぜんおな ほうちょう べつべつ  
この星は、偶然同じ方向にある別々の  
ほし じゅうせい よ ぼうえんきょう  
星で重星と呼ばれています。望遠鏡で  
みると、ミザールのそばをまわる  
れんせい み  
連星も見ることができます。

## 『金のひしゃく』

むかしむかし、一人のかわいい女の子が森の近くで、お母さんと一緒に暮らしていました。ある夏の夜のことで。お母さんが病気になりました。それはとても暑い夜のことでした。

母：ああ苦しい。どうしても眠れない。ちょっと水がのみたいわ。

娘：お母さん大丈夫？ どうしたの。

母：水が飲みたいの。とてものどが乾くわ。

娘：わかったわ、お母さん。

女の子は井戸のところまで行ってみましたが、そこには水は一滴もありませんでした。

娘：お母さん、井戸には水がないのよ。

母：まあどうしましょう。

娘：そうだ、あの森の泉まで行ってみよう。

母：あんなに遠いところまでいくの？

娘：ええお母さん。

母：あんたはなんてやさしい子なの。

女の子は、一本の古びたひしゃくを手に持って、その森へ向かいました。辺りはとても暗く、女の子は泉をなかなか見つけることができませんでした。一生懸命探して、ついに見つけました。そして、ひしゃくいっぱい水に汲み上げました。それから、家へと向かいました。

しばらくすると、女の子は一匹のこいぬと出あいました。こいぬは、なきさけんでいます。

娘：なかないで。この水を飲みなさい。

そのこいぬは、ちょっと水を飲むと、立ち去りました。女の子のひしゃくは月のように輝いています。

女の子は次に、一人の老人にであいました。老人は、水を飲ませて欲しいと頼みました。

娘：この水は、病気のお母さんのものなの。でも、どうぞ、お飲みになってください。

老人は水を飲み、礼を言って立ち去りました。こんどは、女の子のひしゃくは太陽のように輝きました。しばらくして女の子は家に着きました。お母さんは、ごくりごくりと飲みました。

母：ありがとう。いい気持ちよ。これで眠れるわ。

突然、女の子の手もたから、ひしゃくが消えてしまいました。二人が辺りを見まわしたとき、床の上に7つのダイヤモンドを見つけました。そのダイヤモンドは、すばやく窓の外へ飛んで行きました。夜空の中へ、どんどん高く。そうしてついに、7つの輝かしい星になりました。私たちはいまでもこれらの星を見ることができます。星空の中のひしゃく星がそうです。